



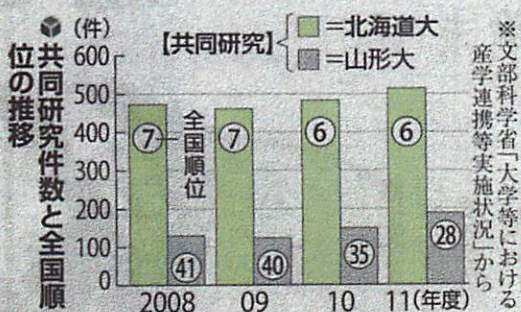
北海道大学の北キャンパス（札幌市北区）に白壁の5階建てビルが完成したのは5年前のこと。ビルは研究施設「シオノギ創薬イノベーションセンター」で、塩野義製薬が開設した。国立大の敷地内に初めて完成した民間企業の研究施設として注目されている。

共同研究は2015年度まで続く。製薬会社「日本メジフジックス」、樹脂加工会社「住友ベークライト」、日立製作所、三菱重工業も関わり、世界に通じる医療装置や医薬品づくりを目指している。塩野義製薬は「今は臨床研究の前段階で、新たな発掘につながる」と（広報）とする。

大学の研究成果が共同研究の形で実用化につながれば、新産業が創出される。地元企業が新産業の担い手となれば雇用の場が増え、

産学連携 地元之恩恵

第5部 潜在力生かせ ⑦



地域経済は活性化する。だが、リーマンショック後、経営体力を弱めた企業が増えて企業の研究開発投資は抑制傾向にある。多く

北大が関係する共同研究の実施件数は全国6位。上位にはあるが、ここ数年間は6〜7位が「指定席」となっている。山形大は09年度に40位だったが、35位、28位と順位を上げている。

共同研究 北大6位

順位	大学名	件数
①	東京大	1547
②	東北大	862
③	大阪大	859
④	京都大	844
⑤	九州大	690
⑥	北海道大	514
⑦	東京工業大	477
⑧	名古屋大	468
⑨	慶応義塾大	425
⑩	広島大	344
...
28	山形大	189

※文部科学省「2011年度大学等における産学連携等実施状況」から



山形 ビジネスにつながる

営体力が弱まっていることもあって、リーマンショック前には一時、前年比3割近くあった伸びはここ数年、1割に満たない状態にある。

一方、山形大は09年度に124件だった共同研究の件数を、10年度に150件、11年度には189件へと伸ばした。11年度は大学別で全国28位。民間企業との共同研究では25位で、文部科学省が公表する上位30位以内に入った。山形大が共同研究の数を伸ばしている理由には、地元との交流活発化を明確な方針として打ち出した点が挙げられる。

た人は一万2000人を超える。

具体的な共同研究の成果も出てきた。例えば米粉100%のパンなどの製粉装置。地元農家の相談を機に、山形大がプラスチック発泡成形技術を用いた特殊な粉砕方法を生み出し米粉に粘り気を持たせ、製パンを可能にした。さらに企業と共同で製粉装置を開発して今秋に発売する。世界規模の研究も進む。次世代のディスプレイや照明用途で注目を集める「有機エレクトロニクス」についての研究では、10年に山形県が関連産業の集積を話し合うための会議を設けた。11年と13年には山形大が相次いで研究施設を設け、応用技術や量産化技術の研究を急ぐ。

07年度には地元金融機関と連携した「産学金連携コ―ディネーター」制度が創設された。09年に工学部が米沢市内の商店街の一角に構えたサテライトキャンパスなどで、経営相談に応じたり、共同研究の橋渡しをしたりする。キャンパスではセミナーも開かれ、訪れ

山形県庁の元職員で、山形大国際事業化研究センター副センター長の小野浩幸教授は「魅力的な研究をきっかけに、多くの人が次々に吸い寄せられている」と話す。新産業を創出する研究開発投資が旺盛になるよう、道内でも戦略の再点検が必要だ。

▲プラスチック発泡成形技術を応用し開発された米粉100%のパン（山形県米沢市の山形大で）

（重松浩一郎、写真も）